

社会参加先進国へ

サービスグラント 年次報告書 2017-2018

[2017年4月1日－2018年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



- － 市民が、自分自身の可能性を最大限に生かして社会参加している
- － 企業が、社会課題解決と、自社のメリットとを両立させる方法を見出している
- － 行政が、市民の知恵を取り入れ、持続的に改善できる仕組みを備えている
- － 誰もが、人の役に立つ喜びを感じられる機会が、すぐそこにある
- － 世界中の課題解決手法を取り入れ、常に世界のより良い方法を探し求め続けている

それが、私たちが考える、私たちが目指す、社会参加先進国です。

2005年、サービスグラントは、日本における「プロボノ」のフロンティアとして、産声を上げました。それから月日が経過し、プロボノは、ビジネスパーソンの社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。

サービスグラントが、この十年余をかけて培ってきたもの。それは単に、プロボノプロジェクトの運営という狭い範囲の個別手法に留まるものではありません。

立場の異なる複数の主体が、共通の目的のもとに協働し、前向きな成果を生み出すに至るまでに、何が求められるのか。どのような知識が求められ、どのような人が力を発揮し、どのような体制を組むことがより確実性を高められ、どのような手順で進めることが効率性を実現でき、どのようなコミュニケーションのスタイルが求められるのか。

この普遍的な問いの答えに、私たちの知見は、つながっていくはずです。

サッカーをする人が、ボールがあればだれもが一緒になってプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を超えてアーティストにまつわるエピソードを語り合えるように。

社会課題の解決においても、基本的な考え方や行動様式が社会全体で共有され、そこに集まる人たちが、立場の違いを尊重しながら、当たり前のように協働できる社会。サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指して、挑戦を続けます。

代表メッセージ

2017年から2018年にかけてのサービスグラントは、初めて年間のプロジェクト実施件数が100件を超え、過去最高となる133件を記録しました。実はこの数字、2012年に立てた目標でしたが、達成までに3年、かと思いきや、5年かかりました。それでも、こうしてひとつ桁が上がったことを素直に喜びたいと思います。そして、NPOやプロボノワーカー、そして、協働する企業・行政・財団との連携があつてのこの成果であると、ご一緒させていただいた皆さまに、心から感謝を申し上げたいと思います。

桁の話で言いますと、ここしばらくの課題認識として、社会課題の桁はずれな大きさに、我々はどのように立ち向かっていくことができるのだろうか、ということがあります。

一つひとつのNPOが支援できる人の数は数十人から数百人規模が一般的です。日本中には約5万団体のNPO法人がありますが、米国やフランスでは100万件以上の団体があり、それに比べると日本はまだ人口密度ならぬ“NPO密度”の低い国だと言えるでしょう。さらに、サービスグラントがプロボノで支援できる件数は、いまのところ年間100件余。これでは、社会課題の大きさの前に、あまりに非力なのではないか、と感じてしまう瞬間が、時折あるのです。

しかし、だからこそこのこれからの活動なのでしょう。

折しも、NPOセクターにとって、2018年は、NPO法成立20周年という記念の年。“成人式”を迎えたNPOが、ちょっとオトナになって、いよいよ社会の中で大きな役割を担っていくステージが待ち受けている、と考えるべきときでしょう。

いま、サービスグラントでは、個別のNPOの基盤強化を支援する「課題解決型」のプロボノプロジェクトに加えて、成果を挙げている取り組みのエッセンスを描き出し、他団体・地域で活用できるようなプログラムを開発する「水平展開型」のプロジェクトへのチャレンジを始めています。プロボノプロジェクトをコーディネートする担い手を広げるため、主に中間支援組織を対象として、プロジェクト運営のポイントを伝える「プロボノアカデミー」がスタートしました。今後は、個人単位でNPOを支援するようなプログラムの開発など、スピード感やコンパクトさを実現したプロボノのスタイルにも挑戦していきたいと思います。

そう。分かりやすく、次の目標は「プロジェクト件数=1,000件」です。それが果たして実現できるのかどうかは、正直、いまはまだ分かりません。でも、ひとつ明確に言えることは、1,000件という目標は、いままで通りのやり方では決して実現できるものではない、ということです。だからこそ、パートナーシップを拡大し、新しい連携を模索していくことが求められています。

そこから生まれてくるイノベーションが楽しみだからこそ、あえて高い目標を設定している、と言えるのかもしれない。

ずっと未完成で工事中。

それはそれで、活動のあり方として、NPOらしくていいな、と思います。



認定NPO法人 サービスグラント
代表理事 嵯峨生馬

2017年度の1年間で

133件のプロボノプロジェクトを運営

P6 インパクトある支援を目指して



昨年度から+597名増の

累計**3,859**名のプロボノワーカーが登録

P8 社会にビジネスに役立つ経験を



企業・行政・財団と

116件の協働プロジェクトを実施

P10 広がるパートナーシップ



人材育成 × プロボノの新プログラム

累計 **16社89名**の企業人が参加

P13 人材育成にプロボノという新風を



新聞、テレビ、雑誌など

29件のメディアに掲載

P16 メディア掲載一覧



事務局体制を強化

スタッフ数は**20名**に拡大

P19 事務局概要



1 | インパクトある支援を目指して

プロジェクト
実施件数

133件

長期
57件

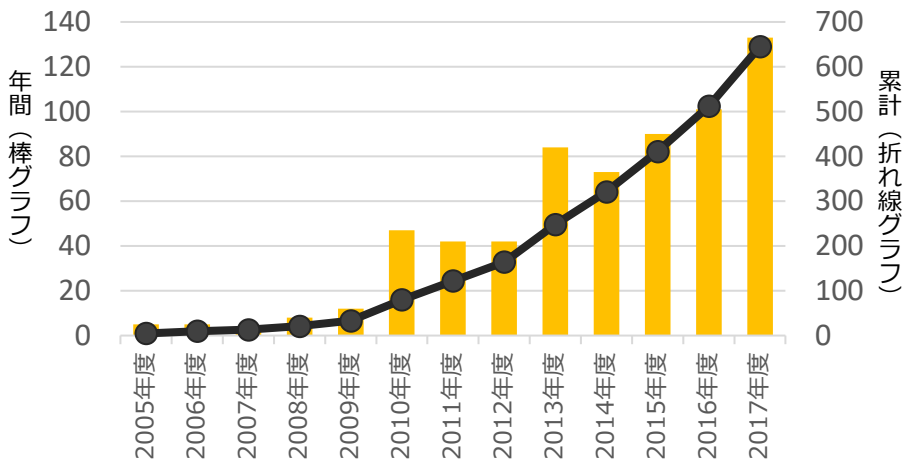
短期
76件

プログラムの多様化、中間支援組織のプロボノ運営支援

プロボノに対する支援ニーズ、参加ニーズが多様化する中、サービスグラントでは、多様なプロボノプログラムを通じて、より多くの団体により多くのプロボノワーカーが参加できるような取り組みを行っています。

2017年度は、長期・短期プログラムを織り交ぜながら、133件のプロジェクト（昨年度 +39件）を実施しました。

また、地域でプロボノがさらに広まるよう、プロボノプログラムの運営を担う意欲のある地域の中間支援組織と連携し、地域が主体となって運営するプロボノを側面的に支援しています。



支援先団体とプロボノチームのミーティングの様子。
（STS GALLERYチーム）



プロジェクト完了後、支援先の皆さんと一緒に、笑顔で記念撮影。
（ぶかぶかチーム）

長期プログラムで57団体を支援

長期プログラムとは、プロボノワーカー5～6名によるチームを編成し、1名につき週5時間を目安に、3～6カ月間にわたって支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムです。支援先に対して、ウェブサイト、印刷物、事業計画立案などの成果物を提供しており、サービスグラントが活動開始以来続けてきた、サービスグラント定番のプログラムです。

今年度は57件のNPO法人・地域団体・社会起業家等に対して、長期プログラムによるサポートを提供しました。

短期プログラムで76団体を支援

まずは一度プロボノによる支援の仕組みを理解したい、体験してみたいというNPO・地域団体やプロボノワーカーを対象に、期間や作業ボリュームの点において比較的軽めの負担で参加できる短期プログラムを導入しています。短期プログラムには、3回の提案ミーティングで成果物納品を目指す「プロボノ部」、約2カ月間の期間に地域で複数の団体を一斉に支援する「プロボノチャレンジ」や1日で納品を目指す「プロボノ1 DAYチャレンジ」などがあります。

今年度は広島県福山市や三重県四日市市など地域での1DAYチャレンジの実施を含め、77件の団体に対して短期プログラムによるサポートを実施しました。



川崎で開催されたプロボノプロジェクト振り返りのひとコマです。

プロボノ 1 DAYチャレンジ

本番1日で参加できるコンパクトなプロボノ体験企画が「プロボノ 1 DAYチャレンジ」です。2017年度は10月21日に東京、10月28日に大阪で実施し、合計約130名のプロボノワーカーが参加、26団体を支援しました。参加者は、本番約1カ月前に開催される事前オリエンテーションに参加し、本番当日までの間、チームごとに支援先の活動を体験したり、支援先や関係するテーマについてインターネット調査をしながら準備を進めます。本番当日は、まる1日を使って支援先の事務所・活動拠点を訪問しプロボノワークを実施しました。課題整理ワークショップ、チラシ作成、Facebookページの立ち上げなど、各団体のニーズに応える成果物を全チームが完成。短期間のプロジェクトながら、すべての支援先団体から「満足した」という回答を得ました。



プロボノ1DAYチャレンジ当日に実施した成果報告会には全チームが集合。

ママボノ

育児休業中の女性や、出産等を機に退職をした女性たちによる、プロボノプロジェクトです。復職に向けたウォーミングアップとして、働く女性同士のネットワーク作り、お子さん連れで参加できる社会貢献活動として、復職前の女性に大変高い関心を持っていただいています。2013年度の開始以来、これまでのママボノ参加者数は223名、支援先は31団体です、2017年度で5周年を迎えました。

2017年度も2016年度に引き続き日本財団の助成を得て、東京12チーム、大阪4チームで大規模に開催、108名のママにご参加いただきました。チームはそれぞれ、女性の視点、子育ての経験などを生かし、子ども・女性関連、医療福祉関連、町内会など様々な団体を、10月～12月までの2ヵ月間のプロジェクトで支援しました。

参加者の感想には、「自分のスキルや知識のレベル感を客観的に見ることができた」「産休前よりパワーアップした状態で職場復帰できるという手応えを持っています」など、復職に向けて働き方を見直す経験になったというコメントを多くいただきました。支援先からは、「支援内容はもとより、チームの皆さんからパワーもいただきました」「支援先団体に選んでいただいて感謝しています」などのコメントをいただきました。

また、2017年度に実施した、ママボノ経験者と非経験者の育休後の意識調査では、「自分の仕事上の強みを確認できた」「職業人として、仕事の価値を高めてけると思う」など様々な観点で、ママボノ経験者はより自信を高めて復職していることがわかりました。



東京のオリエンテーション（参加者顔合わせ）にて、ママボノメンバー大集合。



大阪の成果提案にて、ママボノメンバーの皆さん、支援先の皆さんと。

アドボカシープロボノ

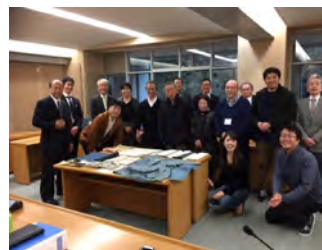
サービスグラントの支援先の中には、法律や制度などの改善を提唱することを通じて、社会課題の解決を推進している団体があります。こうした団体が取り組むアドボカシー活動を支援するプログラムを、弁護士のプロボノ集団「BLP-Network」と連携し、試験的に取り組みました。

フードバンク活動のさらなる普及・発展を目指す「全国フードバンク推進協議会」が行う、企業等によるフードバンクへの寄贈を奨励する新法の制定を目指し、新法の骨子や海外の状況、期待される効果などを簡潔にまとめた議員向けプレゼン資料の作成に取り組みしました。

ふるさとプロボノ

遠隔地から寄せられるプロボノへのニーズに応える「ふるさとプロボノ」。

2017年度は、静岡県掛川市の伝統産業「葛布（くずふ）」の振興を図る「掛川市葛利活用委員会」の事業計画立案プロジェクトを実施。プロボノチームは、現地を訪問して、葛布づくり体験ツアーなどの活動現場体験や、関係者へのヒアリングを行いました。それを元に東京で作業を進め、事業計画を立案しました。



最終提案では副市長をはじめ、関係者が多数参加。葛布の振興について、活発な意見交換が行われました。

2 | 社会にビジネスに役立つ経験を

プロボノワーカー
スキル登録者数

3,859名

前年比
+597名

多様化するプロボノワーカー

サービスグラントにスキル登録をいただいたプロボノワーカーは、2017年度新たに597名を数え、累計登録者数も3,859名に上りました。サービスグラントでは、今後も、ご登録いただいた皆さまにできるだけ多くプロボノへの参加機会を創出できるよう挑戦していきます。

ご登録いただいているプロボノワーカーの内訳について次のような傾向が見られます。

(1) 社会人年数別

プロボノワーカーとしてスキル登録した人の中心は入社1～10年程度の世代で、全体の約半数を占めます。

あわせて、20代の若手社会人の登録や、50代以上の登録も広がっており、プロボノのすそ野が着実に広がりを見せています。

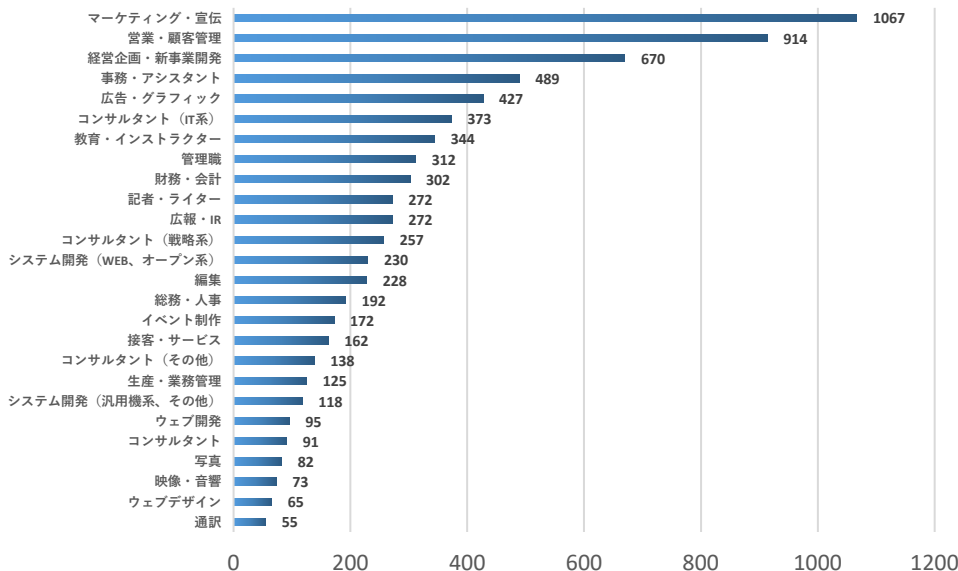
(2) 男女別

男女比については、近年の女性活躍の機運も追い風となって女性の登録者数が増加しており、全体の約半数近い46%が女性となっています。

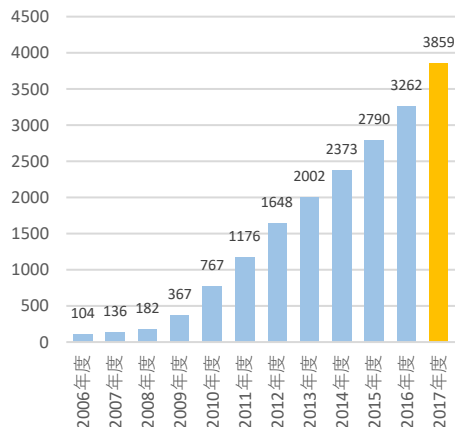
(3) 職種

マーケティング関連、営業職に続き、2017年度は経営企画、新規事業開発や広告・グラフィックなどに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。

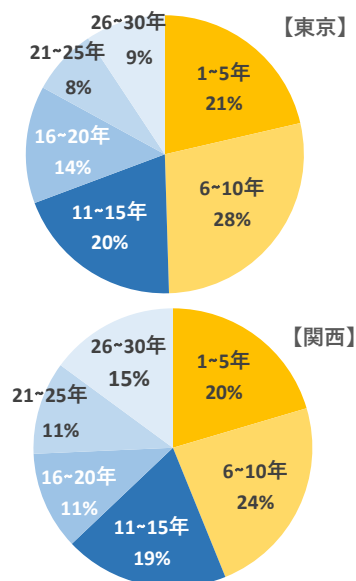
その他にも、一般的な事務職から各種コンサルタント、デザイナーやコピーライターなどのクリエイターに至るまで、幅広い職種の皆さまから多数のご登録をいただいています。



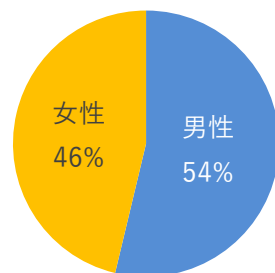
【参考】職種別登録数（2017年度） ※複数回答あり



（図1）スキル登録者数の推移



（図2）社会人年数別登録者の比率



（図3）男女別登録者の比率

プロジェクトのすべてをプロボノワーカーがプロデュースする 「プロボノが運営するプロボノ」 東西本格展開へ

プロボノプロジェクトへの参加に加えて、一歩進めて、サービスグラントの運営を応援したり、仕組みづくりに協力するコミュニティ「サービスグラント友の会」では、プロボノプロジェクトのよりよいあり方を目指して、様々な提案や実践を行っています。

特に、2016年度から東京で先行して開始した、経験豊かなプロボノワーカーがプロジェクト立ち上げの初期段階から関わる「パートナー」の制度が、今年から関西エリアにおいてもスタートしました。

東京の21名に加え、関西で5名のパートナーが、支援先の審査や、チームメンバーを募るプロボノワーカー限定イベント「新プロジェクト発表会」の運営、アカウントディレクター（全体統括）としてプロジェクト全般にわたるスーパーバイズを行うなど、多様な役割を担って活躍しました。

よりよいプロジェクト運営を目指して、東京では、課題解決の方策を検討したり好事例を共有する場として月例会を継続開催しました。関西では、プロジェクトの折返し地点にはプロジェクト進捗の共有を、プロジェクト完了後には、実経験からの学びを共有するイベント企画が実施されました。さらに、東西ともにチーム内でプロジェクト後の振り返りワークショップが自主的に行われ、パートナーが自身のこれまでの経験や気づきをもとに、プロボノプロジェクトの質の向上、コミュニティの横のつながりの深化に貢献する取り組みが加速しました。

サービスグラントが自主的に取り組むプロジェクトすべての工程が、経験者の知見とノウハウの集合知によって自律的に運営される体制に移行し、東京、関西ともにこれまでの蓄積を次のステージへとステップアップさせる節目の年になりました。

サービスグラント友の会 主な活動内容

●勉強会・交流会の企画・運営

プロボノならではのマネジメントのノウハウを学び合う「プロジェクトマネジャー勉強会」や、マーケティングを本職とするプロボノワーカーからインタビュー方法や情報収集・分析のノウハウを学ぶ「マーケッター勉強会」など、お互いの専門性や強みを活かし学び合う動きがさらに活発化しました。

●「NPO定点観測員」の実施

サービスグラントによるプロボノの効果検証、および、プログラムの改善につなげる試みとして、NPOの皆さまにご協力いただき、毎年Webアンケートを実施しています。NPOの皆さまの回答をサポートする試みとして、友の会メンバーによる訪問や電話によるインタビュー形式を取り入れ、東京・関西エリアで10名が「NPO定点観測員」として活動しました。

●「プロジェクト合同レビュー」「Pro bono Handover」の新展開

「メンバー相互の協力により成果物のクオリティを高めよう」という、関西のパートナーの起案をうけ、ワールドカフェ形式の「プロジェクト合同レビュー」を9月に初開催。東京のパートナー7名の参加も得て、チーム毎に定めたテーマにさらに的確な視点が加わり、東西の本格的な交流の第一歩目にもなりました。翌3月には、完了したプロジェクトの学び、ツール活用のコツなどを未来のプロボノワーカーにバトンタッチする引継イベントを開催。経験を言語化し伝え合う場づくりは、プロジェクトの成果を高めるだけでなく、プロボノの多様な醍醐味を確認し合える相乗効果の高い新展開として、意義ある取り組みになりました。



関西で初めて実施された新プロジェクト発表会の様子です。



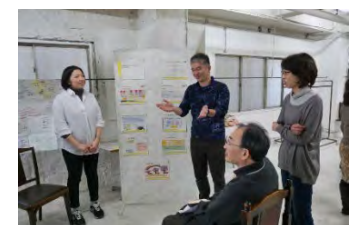
東京で実施された新プロジェクト発表会。100名以上の方に参加いただきました。



PM勉強会の様子です。講師は、PM経験のあるパートナーが担当しています。



プロジェクト合同レビューの様子です。東京のパートナーも参加しました。



Pro bono Handoverで、プロジェクトについて紹介するプロボノワーカーのみなさん。

3 | 広がるパートナーシップ

協働
プロジェクト
116件*

企業 27件
行政 79件

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員の皆さまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特性が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。



日本電気株式会社

※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます。

女川・秋田・四日市。ユニークな地域づくりに取り組む社会起業家を支援

社会起業家や地方創生の取り組みをNEC社員のプロボノ活動で支援する「NECプロボノイニシアティブ」の第8期が行われ、社員19名が参加しました。2017年度は、宮城県女川町で地域の素材を生かした手作り石鹸の事業に取り組むアイローカル社、秋田県五城目町などの古民家を活用したシェアビレッジ社、三重県四日市を走る「四日市あすなろう鉄道」周辺地域のまちづくりに取り組む「四日市の交通と街づくりを考える会」を支援しました。

パナソニック株式会社

東北、熊本の復興支援につながるプロジェクトを東阪で展開。障がい者、LGBT支援も

7年目となるNPOの基盤強化を目的としたNPOサポートプロボノプログラムには、東阪中長期5チーム、1DAYプロボノ1チームに計32名が参加。東日本大震災後に開始した移動支援サービスの業務フロー改善、熊本地震後の復興会議の議事録から知見整理を試みる調査プロジェクト、LGBTの啓発を牽引する団体の事業計画立案、障がい者支援団体のパンフレット制作、車椅子バスケットの大会運営マニュアルの作成など、多様なテーマに取り組む団体を支援しました。

SMBCグループ

支援先団体の魅力を伝え、寄付者・会員を増やすための広報活動改善を実施

三井住友フィナンシャルグループ（以下SMFG）は、三井住友銀行を含むSMBCグループ各社の従業員による横断型のプログラムを、2014年度より展開しています。本年度は、世界各地の戦争や紛争、自然災害の犠牲者の支援活動を行うNPO法人JENと、日本全国の社会福祉士の専門技術向上を目指し、研修や実例共有の場を提供する公益社団法人日本社会福祉士会2団体の広報活動を改善するための「マーケティング基礎調査」を実施しました。

日立グループ

参加しやすい短期間でのプロボノ支援により、本業を生かした社会課題解決を目指す

日立グループでは、日立グループ・ビジョンの実現こそCSRと位置づけ、本業を生かした社会課題の解決を目指しています。その一環として、短期間でのプロジェクト「ちょこプロ」を2016年度からスタートしました。本年度は、子育て支援、障がい者支援などさまざまな領域で活動する5つの団体に対し、マーケティング基礎調査や業務フロー整理などを通じ、団体の活動基盤の強化を支援しました。

株式会社リクルートマネジメントソリューションズ

人材・組織開発のプロフェッショナルが、NPOの営業プロセス改善を支援

企業内研修や人事コンサルティング事業を手掛ける株式会社リクルートマネジメントソリューションズ。その社員によるプロボノ活動「プロ活」が、2017年度より始まりました。今回は、社員6名が参加し、貧困家庭の子どもへの学習支援を行うNPO法人キッズドアを支援先に、法人寄付拡大を目的とした営業資料の作成を支援しました。

【2】行政との協働



東京都「東京ホームタウンプロジェクト」

過去最大規模開催の「プロボノ1DAYチャレンジ」などにより、3年間の支援先数合計は70に到達

「いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる」を合言葉に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる「地域包括ケアシステム」の実現を目指し、東京都とサービスグラントが協働で進めている「東京ホームタウンプロジェクト」。2015年度の開始から3年目の本年度は、26の地域団体・NPOにプロボノ支援を提供し、各団体の基盤強化に取り組みました。特に、準備期間1ヵ月＋本番1日の短期間で成果物を作り上げる「プロボノ1DAYチャレンジ」は、20団体を102人のプロボノワーカーが支援し、過去最大規模での実施となりました。2018年2月24日には本年度総括イベント「東京ホームタウン大学」を開催し、山崎亮氏による基調講演と、本年度支援した20団体以上が登壇した分科会に、計400名以上が来場。さらに3年目の節目として、本プロジェクトの意義や支援先団体の広がりなどを伝える東京ホームタウンプロジェクト紹介パンフレットを制作しました。特設ウェブサイト（<https://hometown.metro.tokyo.jp/whatisthtp/>）からもどうぞご覧ください。

大阪府「大阪ええまちプロジェクト」

オール大阪で高齢者の生きがいづくりと介護予防への機運を醸成するプロジェクトがスタート

団塊世代が後期高齢者となる「2025年問題」を見据え、若手からシニアまでオール大阪で住民主体の支え合いによる地域包括ケアシステムの構築を目指すとするプロジェクトです。大阪府とサービスグラントが協働し、2017年度から始まりました。開始1年目の本年度では、17の地域団体・NPOに対して、計77名のプロボノワーカーが支援を実施、各団体の基盤強化のみならず、団体のノウハウを可視化し他地域にも参考になる運営マニュアルといった事例が生まれました。2018年2月28日には総括イベント「大阪ええまちプロジェクト大交流会」を開催。「移動支援」「居場所づくり」「認知症対応」「介護予防」「高齢者の社会参加」のテーマに分かれて、本年度の支援先団体を含む地域団体、生活支援コーディネーター、行政担当者、アクティブシニア、企業人など多様な皆さま計200名以上と共に“ええまちづくり”に向けて活動の始め方、進め方を共有する場を実施しました。

東京都「地域の課題解決プロボノプロジェクト」

東京都内の町会・自治会を支援した2017年度スタートのまちづくりプロジェクト

都内に約9,000あるといわれる町会・自治会。近年その価値が見直されつつある一方で、加入率の低下や構成員の高齢化等の課題も出てきています。本プロジェクトでは、都内の8つの町会・自治会を支援し、町会・自治会のWウェブサイト制作や、住民の声を聞くアンケート調査、業務フローの作成などを行いました。43名のプロボノワーカーが参加し、総括イベントには100名を超える方にご参加いただきました。

東京都「障害者スポーツ団体基盤強化事業」

障害者スポーツ団体の運営基盤強化のためのプロジェクトがスタート

東京都内で活動を行う障害者スポーツ団体の課題に応じ、運営基盤強化に資するプロボノプロジェクトを実施しました。初年度となる本年度は、東京都身体障害者アーチェリー協会、東京都ゴールボール連絡協議会、東京ボッチャ協会に対して、ウェブサイト制作や業務効率化のための仕組みづくりを行いました。また、障害者スポーツ団体等に対し、広く基盤強化の必要性について理解促進を図るため、事例紹介等を行う総括イベントを行いました。



千葉県「ライフシフトプロボノプログラム」

退職後の人生に思いをはせ、NPO・地域団体の活動基盤を強化する

千葉県にある高齢者福祉団体の活動基盤を強化するライフシフトプロボノプロジェクト。2017年度は千葉県の4団体を支援しました。普段は企業に勤める16人のプロボノワーカーが「研修」として参加し、退職後の地域社会での生き方について座学とプロボノ活動の実践両方を交えながら学びました。

千葉県松戸市「プロボノチャレンジMATSUDO2017」

地域活動への参加が健康寿命を延ばすことを証明する研究、「松戸プロジェクト」

全国に先駆けた千葉大学による科学研究「都市型介護予防モデル“松戸プロジェクト”」として、プロボノプロジェクトを実施しました。松戸市内で高齢者の支援や高齢者の活動の場となる5つの地域団体を、19名のプロボノワーカーが約2か月のプロジェクトで応援しました。

神奈川県川崎市「川崎プロボノ部」

プロジェクト終了後も交流が続く、プロボノと地域団体のコミュニティを創出

プロボノプロジェクト参加者がプロジェクト終了後も地域の団体を支援する、また団体からも参加者に声を掛けられる、そんな「プロボノのコミュニティ」づくりを目指して行われたプロジェクトです。のべ26人のプロボノワーカーが、6つの団体を支援しました。

三重県四日市市「プロボノ 1 DAYチャレンジ in YOKKAICHI」

大人たちが本気になり、その横顔を見て本気になった高校生たちのアツい1日

今年度は4団体を22名で応援することに加えて、地元高校生7人がオブザーバーとして参加しました。社会人が真剣に議論する姿を見て触発されたのか、課題解決に向けたアイデアがたくさん出されました。支援先、プロボノワーカー、高校生がそれぞれに得るものがあったというアツい1日となりました。

奈良県生駒市「ママのプロボノ活動促進事業 イコママボノ」

社会と関わることで、新しい自分を発見！

女性が社会貢献できる場を創出し、育児休業後の円滑な職場復帰や、再就職に向けたウォーミングアップとしての取組み「イコママボノ」が、2年目を迎えました。3団体の応援に10名が取り組みました。参加したことで、参加者からは「人との繋がりが広がった」、支援先からは「団体内のコミュニケーションが活発になった」と喜ばれています。

広島県福山市「まちサポ「プロボノ」1DAYチャレンジ」

「人財バンク」に集まった様々な専門性や経験が、地域の課題解決に結びつくプログラムを目指して

福山市で2年目の実施となる1DAYチャレンジ。本年度は営業職やデザイナー、行政職員等、多様な業種の方11名が参加し、3団体を支援しました。専門人材のボランティア登録制度である「福山市まちづくり人財バンク」を一層活用し、協働のまちづくりを深める「仕組みづくり」の一環として実施されています。

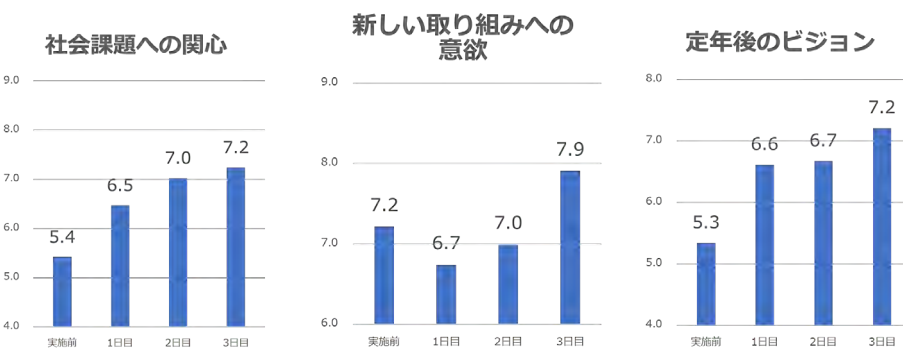
4 | 人材育成にプロボノという新風を

サービスグラントでは、2016年度よりフコク生命等と協働し、社会課題解決とイノベーション推進を見据えた企業連携による人材育成を目的とした、人材育成、CSR、イノベーション推進関連部門のネットワークJOIN（人材オープンイノベーションネットワーク）の運営を行っています。また、そのネットワーク内で実施するプログラムの開催や運営支援等も行っています。

プロボノ価値共創プログラムの開催

「プロボノ 価値共創プログラム」では、企業内の中堅・シニア人材を対象に、異企業でチームを組み、約1カ月間で、NPOなどの支援先に対して成果物（例：チラシ、マニュアル、業務改善等）を提供するプロボノ活動を行います。参加者一人ひとりが社会感を向上させ、コラボレーション力を磨く相互研鑽の機会とし、さらに、各人がイノベーションにつながるような学びや気づきを得ることを目指しています。2016年度から開始し、これまでに16社89名の方にご参加いただきました。

2017年度はシニア向けプログラム2回、中堅向けプログラム2回を開催し、合計10社49名の方に受講いただきました。また支援先5団体に対し、11チームが支援を行い、それぞれで団体の課題解決につながる成果物を提供しました。



プログラム参加者による開始前から最終日までの自己評価によると、「社会課題への関心」「新しい取り組みへの意欲」「定年後のビジョン」などの各項目で顕著な変化が見られます。

異業種マーケティングプログラムの運営支援

「異業種マーケティングプログラム」は、新事業創出に向け、自社だけではなく異業種で協働し、各社のテーマとリソースを関連付け、連携を描きながらマーケティングを行うプログラムです。トライアルである本年度は7社12名が参加しました。サービスグラントではプログラムの運営支援を行いました。

企業と社会の人材育成フォーラム開催

「越境学習、他流試合のその先へ。社会のリアルな課題への挑戦こそが、イノベーションを切り拓く」をテーマに、人事部門、研究開発部門など異なる企業内セクションをはじめ、ベンチャー企業、NPO 法人など様々な角度から、情報を発信・共有するフォーラムを、2017年12月19日に開催しました。

当日は、登壇者・関係者を含め80名近い方々にご参加いただき、イノベーションへのヒントや社会課題とビジネスの新たな関連について、パネルディスカッションを通じてお伝えしました。



プロボノ価値共創プログラム
チームで支援先の課題を明確化
を行い、成果物を決定します。



プロボノ価値共創プログラム
プログラム中では、実際に現場体
験や関係者へのヒアリングも行い
ます。



プロボノ価値共創プログラム
最終日はチームで活動を振り返り、
気づきや学びを仕事に持ち帰ら
ず。



フォーラムでは、プロボノ価値共
創プログラムに参加した支援先及
び企業の人材育成担当者が登壇し、
プログラムの成果について、お話
しいただきました。

5 | 「DO」から「ENABLE」へ

サービスグラントでは、質の高いプロボノプロジェクトの運営をモットーに、数多くのNPO・地域団体とプロボノワーカーとのコーディネートを手掛けてきました。これまでの活動を通じて蓄積したノウハウや経験は、さまざまな地域・分野等において活動する、中間支援組織やコーディネーターが、企業人や専門家など多様な主体の参画を得ながら、活動を発展させていくうえで役立つポイントが数多く含まれています。

サービスグラントでは、これらをまとめて社会に発信する取り組みを今後強化していきます。

DO
サービスグラントが
プロボノをコーディネートする

ENABLE
サービスグラントが
プロボノをコーディネート
できる人や団体を広げる

明日からできる「プロボノ」活用ハンドブック

生活支援コーディネーターに向けたプロボノの入門テキスト

介護予防や生活支援につながる地域づくりの活動を活性化することを目的として、全国各地に「生活支援コーディネーター」が配置されています。生活支援コーディネーターが、プロボノを味方につけて、地域づくりを推進していくためのヒントをまとめた参考書を作成しました。

身近な地域の課題解決に取り組む活動を支援するために、支援内容を決め、プロボノワーカーを集め、プロジェクトを立ち上げ、運営していくためのエッセンスを抽出し、分かりやすくご紹介しています。

ガイドブックは、サービスグラントのホームページからダウンロードしていただくことができるほか、郵送費をご負担いただければ、必要部数送付させていただくことが可能です。（部数に限りがあります。）



「プロボノアカデミー」いよいよスタート！

中間支援組織に、プロボノワーカーに。プロボノの“学校”がはじまります

各地で活動するNPO等の中間支援組織や、東京・関西で活動するプロボノワーカーなど、プロボノに参加したり関心を持つさまざまな人や組織を対象に、プロボノプロジェクトを成功させるポイントから、事務局のコーディネートの実務まで、さまざまなカリキュラムでプロボノについて学ぶことができる“学校”が始まります。

2018年度から各地で動きはじめる「プロボノアカデミー」を通じて、良質なプロボノの在り方を発信・共有していきます。



PROBONO ACADEMY

6 | 国際的ネットワークと情報発信

グローバル・プロボノサミット 2018

2018年2月6日～9日

2013年の第1回以来、6回目の開催となる「グローバル・プロボノサミット」が、インド・ムンバイで開催され、世界各地の約35団体45人のメンバーが集まりました。

BMW財団とタップルート・ファウンデーションが主導して立ち上がったこのネットワークですが、このサミットを機に、ネットワークのメンバーが主体的に運営する体制へと大きな転換を図りました。

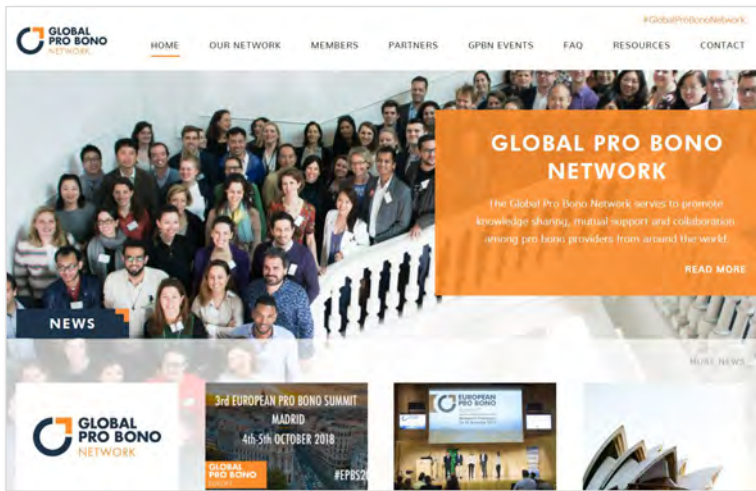
今回のサミットでは、これまでのネットワークの経緯や役割を整理しつつ、ビジョンや行動原理を議論しながら、今後のネットワークの運営やあり方を決定していました。

2014年から約3年間にわたって、代表理事の嵯峨が、ネットワークの幹事の一人として運営に貢献し、ネットワークの組織づくりに寄与してきました。

また、ネットワークのウェブサイトの再構築をサービスグラントが担当し、2018年2月にリニューアルしたウェブサイトの公開を実現しています。



グローバル・プロボノサミット 2018インドのムンバイにて開催され、世界各国のプロボノ運営団体、企業、財団等 **100名**を超えるメンバーが参加しました。



グローバル・プロボノネットワークの新しいホームページ。
ディレクションからデザイン・コーディングまでをサービスグラントが一貫して担当しました。
<http://globalprobono.org/>

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバル・キャンペーンです。

期間中、日本では、「ママボノ」プログラムの開始、「東京ホームタウンプロジェクト1 DAYチャレンジ」の開催など、各種イベントを集中開催しました。また、日本から世界に向けて、アクティブなプロボノプロジェクトの様子をリアルタイムで発信しました。



メディア掲載一覧

新聞	◆日本経済新聞 2017年7月15日 ◆信濃毎日新聞 2017年9月1日 ◆京都新聞 2017年9月4日 ◆読売新聞（大阪版） 2017年9月6日 ◆熊本日日新聞 2017年10月24日ほか10紙 ◆日本海新聞 2017年11月19日、11月25日 ◆読売新聞 2018年2月19日 ◆朝日新聞 2018年3月21日 ◆神戸新聞 2018年3月26日
ラジオ	◆渋谷のラジオ 渋谷のプロボノ部 2017年4月～毎週火曜 ◆J-WAVE SUNRISE FUNRISE 2018年2月18日 ◆J-WAVE JK RADIO TOKYO UNITED 2018年2月9日放送
雑誌・専門誌	◆三井不動産 COMMONS PAGE press10号 2017年7月号 ◆公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団「ふれあいの輪」186号2017年秋号 ◆大阪市社会福祉協議会「大阪の社会福祉」vol750 2017年11月号 ◆月刊ガバナンス 2017年12月号 ◆日経ビジネス 2018年2月5日号
テレビ	◆NHK Eテレあしたも晴れ！人生レシピ 2018年3月2日放送 ◆NHK おはよう日本 2018年3月3日放送
地域情報誌	◆渋谷男女平等・ダイバーシティセンター「アイリス」 2017年8月 72号 ◆タウンニュース（川崎市内各地区版） 2017年7月21日号

講演実績

講演	◆特別区職員研修 2017年5月17日 ◆全国市町村国際文化研修所 2017年6月8日 ◆千葉大学・竹中工務店「健康社会と空間・まちづくりシンポジウム」 2017年6月29日 ◆医療経済研究機構 シンポジウム 2017年7月12日 ◆首都大学東京ビジネススクール 2017年9月13日 ◆日本NPOセンター研修（岩手県） 2017年12月8日 ◆神奈川県職員研修（人生100歳時代） 2018年1月29日 ◆京都CSRネットワーク 2018年2月16日
----	---

▼月刊ガバナンス 2017年12月号 プロボノと自治体職員



▼朝日新聞 2018年3月21日 問われる公の仕事



▼神戸新聞 2018年3月26日 社会貢献へ100人交流



7 | 会計報告

2016年度(2016年10月1日～2017年9月30日)の活動計算書は以下の通りです。

科 目		金 額		
I	経常収益			
1	受取会費			
	正会員受取会費	72,000	72,000	
2	受取寄付金			
	受取寄付金	344,264	344,264	
3	受取助成金			
	受取助成金	7,350,136	7,350,136	
4	管理費			
	事業収益			
	サービスの提供を通じたNPO支援事業	3,209,516		
	企業・行政等との連携による活動の運営事業	73,361,243		
	活動の運営を担う人材育成事業	0		
	活動の普及・広報・社会的制度化に関する事業	608,622		
	その他目的を達成するために必要な事業	0	77,179,381	
5	その他収益			
	受取利息	332	332	
	経常収益計			84,946,113
II	経常費用			
1	事業費			
	(1)人件費			
	給料手当	22,206,099		
	賞与	2,692,300		
	人件費計	24,898,399		
	(2)その他経費			
	外注費	23,269,744		
	会議費	1,838,867		
	交際費	215,962		
	旅費交通費	5,627,091		
	通信運搬費	639,035		
	消耗品費	837,554		
	新聞図書費	5,730		
	印刷製本費	1,382,231		
	租税公課	150,450		
	支払手数料	666,234		
	支払報酬	146,880		
	研修費	185,720		
	その他経費計	34,965,498		
	事業費計		59,863,897	
2	管理費			
	(1)人件費			
	役員報酬	4,188,000		
	法定福利費	4,334,456		
	福利厚生費	126,876		
	人件費計	8,649,332		
	(2)その他経費			
	交際費	16,800		
	通信運搬費	138,245		
	消耗品費	367,523		
	支払手数料	397,162		
	地代家賃	2,201,258		
	賃借料	88,200		
	租税公課	2,955,300		
	支払報酬料	950,400		
	減価償却費	2,490,645		
	その他経費計	9,605,533		
	管理費計		18,254,865	
	経常費用計			78,118,762
	税引前当期正味財産増減額			6,827,351
	法人税、住民税及び事業税			1,119,300
	当期正味財産増減額			5,708,051
	前期繰越正味財産額			3,916,760
次期繰越収支差額	次期繰越正味財産額			9,624,811

今年度の支援先一覧

【東京事務局】

(宮城県・東京都・千葉県・神奈川県・静岡県・広島県・三重県)

株式会社アイローカル
明第2西地区高齢者支援連絡会
あさおみどりのコンサート
紫陽花の森サロン
アゼリア合奏団inシニア
足立区町会・自治会連合会
NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
NPO法人一期JAM
NPO法人移動支援 Rera
井の頭一丁目町会
歌声広場よりみち
浦安介護予防アカデミア
エーデルYS.com
NPO法人NPO・えん
NPO法人エンパワリングブレストキャンサー (E-Bec)
大田区社会福祉法人協議会
大森本町北町会
NPO法人オレンジアクト
川口イベントサークル シェイクハンズ
かわさきキャラ着ぐるみ隊
一般社団法人輝水会
北新宿二丁目町会
北千束中自治会
NPO法人北朝鮮難民救援基金
NPO法人キッズドア
NPO法人キャンサーネットジャパン
葛布利活用委員会
NPO法人芸術家と子どもたち
NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会
元気応援くらぶ いとうさん・ち
元気スクールグループ
郷地東町連合自治会
小金井市けやき通り商店会
小金げんき友の会
国立成育医療研究センター もみじの家
NPO法人子育て未来ネット こどもと
小竹町会
NPO法人子ども教育立国プラットフォーム
一般社団法人コミュニティ・カウンセラー・ネットワーク
NPO法人しあわせなみだ
NPO法人ジービーパートナーズ
シェアビレッジプロジェクト
NPO法人JEN
視覚障害リハビリテーション協会
品川区社会福祉協議会「さわやかサービス」「ファミリー・サポート・センター」
NPO法人シャイン・オン・キッズ
終活サポーターズ
NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
NPO法人情報ステーション
NPO法人スマイルクラブ
一般社団法人全国フードバンク推進協議会
NPO法人SOU
高島平七丁目町会
NPO法人たすけあいとはとぽぽ
玉川学園地区社会福祉協議会
NPO法人多摩子ども劇場
一般社団法人多摩マイライフ包括支援協議会
NPO法人ほっとねっと
NPO法人Dカフェまちづくりネットワーク
一般社団法人ドゥーラ協会
NPO法人東京コミュニティスクール
NPO法人東京釣り協会
東京都ゴールボール連絡協議会
東京都身体障害者アーチェリー協会

東京ふれあい医療生活協同組合
東京ボッチャ協会
NPO法人東京レインボープライド
NPO法人ドリームタウン
認定NPO法人日本IDDMネットワーク
一般社団法人日本イスラエイド・サポート・プログラム
社会福祉法人日本国際社会事業団
公益社団法人日本社会福祉士会
榛名坂自治会
NPO法人PIECES
東中野キングス・ガーデン
NPO法人ぶかぶか
福山市自治会連合会
NPO法人ブラチナ美容塾
NPO法人放課後NPOアフタースクール
社会福祉法人三篠会
一般社団法人みつ蛸
社会福祉法人南町田いろば会 みぎわホーム
稔台3町会「キラキラいこいの場」
ミマモカフェ/0歳子育て応援隊
御幸学区まちづくり推進委員会御幸学区ボランティアセンター
みんなのリビング葛が谷
武蔵村山少年少女合唱団
NPO法人武蔵村山ひまわり
一般社団法人もりや子育てネットワークまもり
四日市の交通と街づくりを考える会
Local Life Friends

【関西事務局】

(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・三重県・熊本県)

NPO法人アクティブネットワーク
NPO法人茨木シニアカレッジ
STS GALLERY
NPO社会福祉センターまごころ
おむつなし育児研究所
NPO法人介護支援の会 松原ファミリー
NPO法人関西生活文化研究会 おでかけ
NPO法人きんきうえぶ
NPO法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク
NPO法人呼夢・フレンズ
SASAE愛太子
佐竹台スマイルプロジェクト
五月が丘北むつみ自治会
NPO法人J-heritage
NPO法人市民活動サークルえん
NPO法人すまいるセンター
NPO法人ソーシャルサポートセンターひょうご
たわわ食堂
Ms.チアーズ
認定NPO法人地球環境市民会議
NPO法人共に自立あくしょん
NPO法人ニコニコ共和国
西山田ふらっとサロン
伊丹親善車いすバスケットボール大会実行委員会 (バスケット伊丹)
パソコンボランティアWing
NPO法人ハッピークラブ
NPO法人ぴーす
NPO法人フェリスモンテ
不動ヶ丘高齢者等生活支援プロジェクト ほっとらいふ
NPO法人まほろば円舞会
南いきいきファーム推進会
モモの木
NPO法人UDほっとねっと

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820



役員

理事

生駒 芳子
川淵 恵理子
嵯峨 生馬（代表）
中野 宗

監事

石原 英樹

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
岡本 祥公子
津田 詩織
宮坂 奈々
樫尾 直美
角永 圭司郎
清野 あずみ
北詰 佳子
鈴木 七重
石原 大地
柴岡 久美子
中川 寛允
皆川 陽香
細川 美津子
小泉 英治朗

関西事務局

槇野 吉晃
河井 靖子
堀 久仁子
永野 純一郎

賛助会員のご案内

この報告書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて、プロボノの展開とともに、団体の財政基盤を確保しながら活動を続けています。

しかしながら、この報告書に記載したプロジェクト総数133件のうち、約12%に相当する16件は、特に財政的な裏付けはありませんが、社会課題解決に寄与するNPOの支援につながると考え、プロボノプロジェクトの立ち上げ・運営を行っています。

こうした自主事業を支える仕組みが賛助会員です。

サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO・ソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供することに向けて、ぜひ皆さまの応援をお願いします。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。

お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者の皆さまが寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは、こちらのページをご覧ください。

<https://www.servicegrant.or.jp/aboutus/support.php>

